浄化槽行政の在り方に関する論点について（委員発言事項の整理）

資料1－1

浄化槽を取り巻く状況と浄化槽の特徴

環境保全上健全な水循環の構築

モニタリングの在り方
・水域等の特性や社会的コストにより浄化槽に求められるモニタリング方法
・他の分野との整合性をとった法定検査の在り方

水循環の指標
・水域等の特性を考えた指標
・浄化槽の整備効果を把握するために望ましい有機汚濁指標
・微量汚染物質のモニタリングの考え方
・窒素、リンに対する考え方

小規模事業場の排水対策
・家庭排水以外の排水に浄化槽でどのように対応するか

循環型社会

汚泥処理システム
・汚泥の循環利用の検討
・し尿処理施設の位置づけ（浄化槽との一体化、浄化槽汚泥処理の専門化等）
・汚泥処理の民間活用、技術開発の誘発
・脱温暖化を考慮した汚泥のバイオマス有効利用の推進策

温暖化対策
・生ごみの扱いも含め、オンサイトのエネルギー回収システム等について浄化槽がどこまで貢献できるか
・脱温暖化社会に向けた電気を使わない浄化槽等の技術開発

IT技術の導入等
・ＩＴ化技術の導入等
ソフト部分の技術開発

技術開発の促進

今後の浄化槽整備

社会状況の変化に応じた浄化槽の役割
・今後の人口変化の中で浄化槽が果たすべき役割
・人口変化を踏まえた集合処理の更新時における浄化槽への切り替えなど

面的整備の在り方
・面的整備の在り方

国民の主体的な環境保全

国民の主体的な環境保全活動としての浄化槽の確立
・ボランティア志望者の活用
・ごみ分別等において住民の意識向上が培われた中の浄化槽

海外展開

浄化槽の海外展開
・ヨーロッパや北米の状況も踏まえた海外展開
・現地の人材、インフラ整備の状況も踏まえた海外展開